



平家物語

原文

祇園精舎の鐘の声

所業無常の響きあり

沙羅双樹の花の色

盛者必衰の理をあらわす

驕れる人も久しからず

唯春の夜の夢のごとし

猛き者も遂には滅びぬ

偏に風の前塵に同じ

現代語訳

祇園精舎の鐘の音には

万物は流転し、同じ状態でとどまることはないという響きがある

沙羅双樹の花の色は

盛んな者も必ず衰えるという、この世の道理を示している

栄耀栄華に驕る者も、それを長く維持できるものではない

ただ、春の夜に見る夢のようである

勢い盛んな者も、ついには滅びてしまうというのは

まさに風の前にある塵のようなものである